



# 栄小学校だより

令和4年3月17日(木) No.39

## 〇3月18日(金)は卒業式です。

明日,3月18日(金)は「令和3年度鈴鹿市立栄小学校卒業証書授与式」です。本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため,卒業生(6年生),在校生代表(5年生),教職員,卒業生保護者(各家庭2名以内),学校運営委員の参加にて例年より規模を縮小して開催いたします。1年生~4年生は,自宅学習となりますので登校はありません。

## 〇人権学習を行いました。

3月1日(火)に4年生が,人権学習「発達障がいについて知ろう」を行いました。講師の先生方は,「こんべいとう(鈴鹿市社会福祉協議会推薦)」の方々です。この授業では,「人に得意・不得意があるようにいろいろな部分でできる・できないがある。みんながそれを理解して共に支え合って生活をしていこう。」ということを学びました。



## 〇地区別児童会を行いました。

3月2日(水),3月9日(水)に地区別児童会を実施しました。主な内容は,①各通学班にある「こどもを守る家」へのお礼,②4月に入学予定の新1年生宅への訪問,③卒業式後の通学班の並び方についてです。

こどもを守る家へのお礼は,みんなが育てた花(鉢)を贈りました。また,新1年生へは4月入学を楽しみにしている内容の手紙を渡しました。



## 〇3.11 避難訓練を実施しました。

3月11日(金),避難訓練(地震)を実施しました。鈴鹿市においては,11年前に発生した「東日本大震災」を忘れないように,また,防災意識を高めるために3月11日に小中学校が一斉に避難訓練を実施しています。

今回の避難訓練は,①一次避難(速やかに机の下にもぐる),②二次避難(運動場への集合避難),③三次避難(垂直避難:全学年が4階に上る)を行いました。

「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」を合言葉に素早い行動ができましたね。地震などの自然災害はいつ起こるかわかりませんので日頃から,各ご家庭でも,避難場所・避難道具等の確認をよろしくお願いします。



## ○異学年交流（おもちゃランド）

3年生が図工で共同製作した「理科で学習した知識を生かしたおもちゃ」を2年生に披露しました。各グループでアイデアを出し合い、工夫して「おもちゃ」を作りました。そのおもちゃを3つの教室に分かれて2年生が体験しました。

操作が簡単なものからやや難しいものまで、バラエティ豊かな作品の数々です。見事クリアした人には、お手製の景品付きです。3年生が丁寧に2年生にルール説明をしている姿はとても微笑ましく感じました。



## ☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」No.17

### ○無気力な子の親に多い「やる気を奪う」声かけ

親に必要なのは「適切な声かけ」と「見守る姿勢」……その3

子どもの「内発的動機」をくすぐってみよう

監督に「ダッシュを20本やれ」と言われたらやるけれど、自発的にやることはない。「明日テストなんだからやりなさい」と親に言われるとようやく取りかかる。そんな受け身タイプの子どもを心配している親御さんもいるでしょう。

言われればやることはやるのですが、やはり自分で考え、自発的に動かなければ成長につながりません。人間が目標に向かって行動を起こす動機には2種類あります。外発的動機と内発的動機です。

前者は「規則や強制、名誉、他人の評価、それをしなければならぬ」など、外圧によってもたらされるモチベーションです。後者は、「好奇心や興味、それが好き、それがしたい」という自分の内側から湧き上がってくるモチベーションです。

外発的動機では、周りの評価を得ることが目的になっています。行動してほめられるとモチベーションは高まりますが、本心からやりたいことではないので、すぐに冷めてしまいます。再び誰かに「やれ」と言われなければ、やる気になりません。自分でモチベーションを上げられなくなるのです。

一方、内発的動機は、本人自身のやりたいという欲求に支えられており、他人の評価はどうでもいいのです。行動そのものを純粋に楽しめるので、目標達成までモチベーションが持続します。壁にぶつかっても、なんとか自分で乗り越えようとします。それもまた楽しみの1つなのです。こうして目標を達成すると、さらにレベルの高い課題に挑戦したくなり、どんどん成長していきます。このように、本人自身が好きだったり興味があることであれば、意欲的になれるのです。ですから、こう尋ねてみましょう。

「何ができたらワクワクするかな？」

「ぼくは昆虫に興味があって、カブトムシを育ててみたいんだ」

などと子どもが答えたら、「じゃあ、山に採りにいこうか。カブトムシの幼虫を一緒に育ててみようか」と興味に寄り添ってあげてください。自分が昆虫が苦手だからといって、「カブトムシなんて嫌い」と言ってしまうと、子どもの意欲は一気にしぼんでしまいます。もし苦手だったとしても胸のうちにしまって、表には出さないようにしましょう。

いちばんいいのは、親御さん自身も楽しみながら、子どもの好奇心の芽を大切に育てることです。外発的動機による行動は長続きしませんが、内発的動機による行動は子どもを成長させます。親は、子どもの興味に寄り添い、一緒に楽しむ姿勢を見せて上げてください。きっと徐々に子どもも変わっていくでしょう。